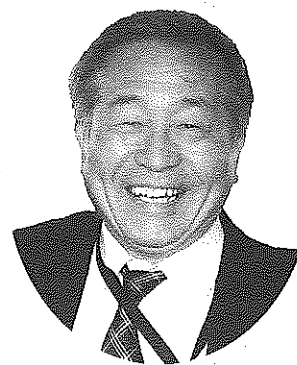


和顔愛語



佐藤 昭二

ご先祖

この世の中で、一番見えないもの、そして解らないもの、それは自分に一番近いものである。まずは目に一番近いもの、それは自分のまつ毛である。そして一番解らないもの、それは自分の心だ。

あまりにも自分に近すぎるから見えなくて、そして解らないもの。これらのものは一人で暮らしている時は別段気にする事もなく、何事も無いかの如く日常は流れて行く。しかし私たちはこれらのものを日常生活では不思議と無意識に確認しようとするのだ。そしてそれは、多くの場合、他によって教えてもらうことが多い。

たとえば、女性は外出する時、自分の顔、まつ毛の状態をととても気にする。その為、毎朝相对（あいたい）する鏡に見えない自分を教えて貰っている。また、解決せず解らない自分の心の問題は、何時ともなしに「周りの人たちに自分はどう思われているか」が気になることで、その問題が浮かび上がってくる。これは、周りの人達に「わからない自分の心」の状態を教えて頂いているということになるのである。

ことほど左様に、私たちは「見えない、解らない」ものに無意識に意識し、問題解決をしようとしているが、しかし複雑多岐なこの社会生活において「見えない、解らない」は無意識のままにしていると必ず大きな問題になってくる。周りの人たちが気になると云う事は、自分の心が解らないと云うことだといえるのだが、自分の心が解らないと、悩みや苦しみ、怒りや嫉妬、場合によっては犯罪として、自分自身をなおも苛むことになってしまう。

自分の心が分らない理由のひとつに、「お前は誰だ」という最も根本的な問いかけに答えられないことが有るが、自分の根本が解らないということは、自分の心に繋がっているご先祖の存在意識が希薄になって居るからである。ここでいう「ご先祖様」というのは連綿とつながるいのちと霊性のことを言う。

ご先祖様とのつながりを失うというのは、例えて言うなら砂漠の砂嵐で、西も東も分らなくなっ

てしまい進むべき方向を見失った時のようなものである。そのような時、微かながらも自分の歩んできた足跡が分れば、自分の進む方向はその足跡の延長である事は自明であろう。そう、その足跡こそ今日の自分を送り出してくれたご先祖＝連綿とつながるいのちと霊性なのである。ご先祖を明確にすることこそ、私達の自分の心を明確にし、人生の進むべき道を見出すことができるようになるのだ。

ここで、誤解を解きたいと思うのだが、私はこれまで「ご先祖のご供養」のことを何度も申し上げて来た。これは、どうしても一般的に、先祖供養と言うと何かの宗教と勘違いし、又それをいかがわしいとか、非科学的だとか、恥だと思っている方も多分に居る。しかし、私の言う「ご先祖のご供養」とは、自分の心を明らかにする、もしくは自分の本当の心に立ち返るための最も近道の方法(メソッド)なのである。これを宗教儀礼だとお考えになられる様な方は何も信仰していないか、信仰はたいてい身勝手な困ったときの神頼みの「拜み信仰」という方であり、宗教観を持ち合わせない、もしくは小さな狭い宗教観の持ち主であることが多い。非常に残念な思いがする。

真の先祖の供養とは自分の心を明らかにする最も近道である。したがって先祖のご供養は自分を供養して居る事になるのである。私達は今こそ「先祖と吾は一体」である事を知るべきである。これは、仏教で云うところの「色即是空」や「自利利他」そして、「自他一体」という教えと同じことである。心の豊かさとは、この一体感から生まれてくるものと私は確信している、そこには物質や金銭ではとうてい計る事の出来ない喜びが有るからだ。

あらゆる悩み、苦しみ、犯罪等は全て自分自身を見失った、つまり、先祖との絆が切れた事から始まっている。今年ほど「絆」と言う字や、言葉が飛び交った年は無い。この絆を何処と結ぶのが、私たちには真剣にそれを考える時が来た様である。

合掌